

整理番号 2020P-126
補助事業名 2020年度 障害のある人が幸せに暮らせる社会を創る活動補助事業
補助事業者名 一般社団法人 全国肢体不自由児者父母の会連合会

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

①障害児者と家族、支援者のための指導誌と機関誌の発行

制度や施策情報だけではなく有識者による福祉の課題の提言は各個人が研鑽を深め、障害者とその家族、関係者の生活の質の向上を高める一助となる。身近に手引き教本があることで遠い存在と感じていた施策、特に医療が教本を利用する事で身近なものとなり得る。さらに、様々な実例を通して、障害児者の生活状況にふさわしい医療連携の在り方も検索する事ができる。「訪問診療」「訪問看護」「訪問リハビリテーション」「訪問薬局」等、障害児者とその家族の医療アクセスを身近なものとすることを目的とする。

②障害児者と家族、支援者の地域交流と療育訓練事業

集団行動での社会性向上を図るとともに社会的自立心を芽生えさせる。また、新しい介護方法を取得し障害児者とその家族への負担を軽減する方法を地域に普及することを図る。医師や専門指導員等による訓練方法や生活指導を通じて日常生活における療育方法を習得し交流も図る。障児害児者と家族、支援者（ボランティア）相互の交流・情報交換を図り障害児者と家族の地域での孤立を防ぐ。

③在宅で生活する障害児者のQOL向上に繋げる地域セミナー

在宅で生活する障害児者の生活の質向上につなげるため、サービス等利用計画作成から、障害福祉サービス提供事業所等が作成する個別支援計画の目的・意義と、モニタリングの重要性を理解し、申請から計画確定までの流れ、サービス等利用計画・個別支援計画それぞれの計画案の作成方法やすり合わせ等を学び、権利擁護の観点から障害児者が自立した一人の人間として地域で共に生活できることを目的とする。

(2) 実施内容

①障害児者と家族、支援者のための指導誌と機関誌の発行

(<https://www.zenshiren.or.jp/publics/index/195/#block1162>)

指導誌「療育ハンドブック」1回発行

機関誌「いずみ」2回発行

指導誌「療育ハンドブック」

ア 令和2年12月20日発行 B6版 62ページ 4000部

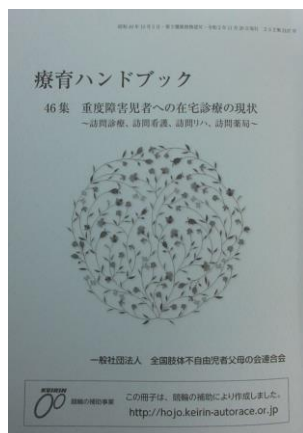
重度障害児者の在宅診療の現状をテーマに訪問診療と往診の違い、訪問診療の特徴や訪問看護、訪問薬局について事例を交え掲載。医療従事者による具体的な事例が書かれており、実際に在宅医療を進めていく上で参考となる指導誌となった。

機関誌「いずみ」

イ 令和2年6月20日発行 A4版 32ページ 2000部

ウ 令和2年12月20日発行 A4版 32ページ 3000部

「いずみ」No. 153、154では障害福祉計画、大災害時障害歯科医療保健に関するアンケート報告及び在宅での排泄介助に関する調査報告について掲載。在宅での排泄介助に関する調査報告では子どもの成長・障害過程においての工夫について具体的な事例を掲載した。新型コロナウイルスの影響により療育訓練1カ所、地域指導者育成セミナー2カ所での開催となったが、参加の少なかつた会員に向け講演内容や資料を「いずみ」にわかりやすくまとめ情報提供した。



療育ハンドブック 46



いずみ 153



いずみ 154

②障害児者と家族、支援者の地域交流と療育訓練事業

(<https://www.zenshiren.or.jp/publics/index/195/#block1166>)

社会参加体験事業（1泊2日）

講師を中心とし専門指導員による訓練や指導を行い、身体をほぐすストレッチをメインに行った。保護者には講師や専門指導員による正しい訓練方法の指導が行われた。1泊2日を1カ所で開催。

ア 令和2年9月12日～13日 17名 石川県 石川県立白山青年の家



③在宅で生活する障害児者のQOL向上に繋げる地域セミナー

(<https://www.zenshiren.or.jp/publics/index/195/#block1168>)

障害福祉サービス等利用計画と個別支援計画、災害児擁護者の個別支援計画の作成の必要性について講演。支援計画が適切に行われているか等、質疑を交えた講演を2カ所を実施。

ア 令和2年10月10日～11日 25名 北海道

イ 令和2年10月31日～11月1日 29名 石川県



2 予想される事業実施効果

①障害児者と家族、支援者のための指導誌と機関誌の発行

携帯の普及に伴いインターネット利用者は増えたが、それを日常的に活用するまでにはまだ至っていない。高齢の会員が多いこともありインターネット上の情報の取捨選択が難しく、また紙媒体でのニーズが強いため現状では完全電子化は難しい。しかし今後紙媒体での需要が減速していくことを考え、電子媒体での情報収集方法、インターネット利用の促進について機関誌等での情報発信を続けていく。

②障害児者と家族、支援者の地域交流と療育訓練事業

新型コロナウイルスの影響によりリハビリや外出機会が激減している中、専門知識の豊富な講師から直接指導を受けることにより、身体の状態に合わせた訓練方法や身体への負担が少ない訓練方法を取得できる。また、人と触れ合う機会が減ってしまっている今、ボランティアや他の障害児者と一緒に過ごすことで心の安定にもつながる。これからも続くであろう新型コロナウイルス渦において、感染予防対策を入念に行い訓練が実施できることを周知し、障害児者の身体と心の健康につとめていく。

③在宅で生活する障害児者のQOL向上に繋げる地域セミナー

地域の中心となる指導者が本セミナーに参加し学び各地域で共有することで人材の育成や活性化につながる。また、他県の会員と交流することで他地域の実情等を知る機会となり、障害児者の生活の質の向上へもつながる。

3 補助事業に係わる成果物

(1) 補助事業により作成したもの

<http://www.zenshiren.or.jp/publics/index/195/>

①障害児者と家族、支援者のための指導誌と機関誌の発行

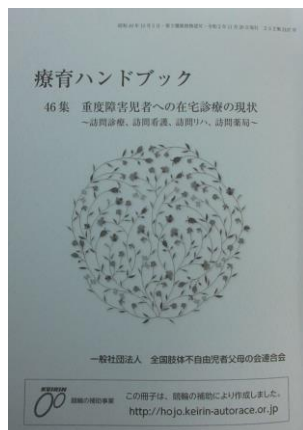
指導誌「療育ハンドブック」1回発行

令和2年12月20日発行 B6版 62ページ 4000部

機関誌「いずみ」2回発行

令和2年6月20日発行 A4版 32ページ 2000部

令和2年12月20日発行 A4版 32ページ 3000部



(2)(1) 以外で当事業において作成したもの

全肢連情報731号

<https://www.zenshiren.or.jp/publics/index/192/#block1140-383>

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 一般社団法人 全国肢体不自由児者父母の会連合会
(ゼンコクシタイフジユウジシャフボノカイレンゴウカイ)

住 所： 〒170-0013
東京都豊島区東池袋1-36-7 アルテール池袋709

代 表 者： 会長 清水 誠一 (シミズ セイイチ)

担 当 部 署： 事務局

担 当 者 名： 高津 美帆 (タカツ ミホ)

電 話 番 号： 03-3971-3666

F A X： 03-3971-6079

E - m a i l： zenshiren@zenshiren.or.jp

U R L： <http://www.zenshiren.or.jp>